

だぁーれだ？

作・小佐部明広

1. 崩れる

人々が現れて、ひとりの人間Aを形作ろうとするが、それは脆く崩れてしまう。人々は何度も繰り返し形作ろうとするが、やはり脆く崩れてしまう。ひとり、またひとりあきらめて去っていく。

2. 謝罪

部下Bが仕事でミスしたところ、上司Cが大声をあげてやってくる。

C なーにやってんだぁー！！
B はい……！！
C お前はぁー！ 何をやってる！
B すみません！
C 何をやってると聞いている！

B すみません！
C 言葉が通じないのかお前は！ 何をやってるときいている！
B はい……これ（さっき形作ろうとしていたもの）が崩れていたので直そうと……
C なぜ？
B はい……？
C なぜ？
B はい、あの……
C なぜ？ なぜ？
B 崩れているのはいけないかなと思ひまして……その、人の目にもつきますし……
C 言い訳をするなあ！
B はい……
C 口を開けば言い訳言い訳、まずは謝らんかあ！
B え……？
C つべこべ言わず謝らんかあ！
B 申し訳ありません！
C なにが？
B はい、
C なにが申し訳ないんだ？
B なにが……
C お前はなにが悪いかわからずに謝るのか！

B すみません……

C お前はとりあえず謝ればいいと思ってる。違うか？
なにがどう悪いんだ？ え？

B はい、私はやるべき仕事があるのに、これが崩れて
いるのに気を取られてしまい、これを直すという今や
るべきではないことをやってしまいました……

C (途中で遮って) つべこべ言わず謝れえ！

B (上司が何を意図しているのかわからず苦しい沈黙)

C 謝りたくないか？

B ……

C まあわかるさ。世の中つてのは納得のいかないこと
もある。だがな、頭を下げれば丸く収まるもんなんだ。
お間の仕事はなんだ？ 謝ることだろう。仕事だと割
り切って謝ればいいんだ。さあ、謝ってみよう。

B ……申し訳ございませんでした。

C 俺にじゃないだろう？

B ……？

C そんな小さいところでおさまるな。お前が謝るべき
はこの街の市民、いや、ひいては世界だろう。大丈夫。
お前ならできるさ。

B、待ちゆく人々に「すみません」「申し訳ございません」など
と次々に謝罪し、ひいては世界に向かって謝罪を続ける。

3. 偉いよ

崩れていた人Aは起き上がり、謝り続ける部下Bに話しかける。
さきほどとは違う場所のようだ。

A あんた偉いよ！

B え？

A 偉いよ本当に！

B 偉くないよ。

A 偉いよ！

B だって謝ってばかりだし。

A 偉いじゃん。ミスしても謝れない人たくさんいるよ。

B でも、給料だって低いし。

A 給料もらえるなんて偉いじゃん。私なんてバイトの
面接も落ちちやうし。

B でも言い訳ばかりしちやうし。

A 偉いじゃん。言い訳することで自分のメンタル保つ
てんでしょ。

B 人の悪口大好きだし。

A 偉いじゃん。ストレス溜め込まないで発散できてる

じゃん。

B でもこの前だってパチンコで10万すっちゃったし。

A 偉いじゃん。挑戦し続けてる証じゃん。

B でも昨日キミのスマホバキバキに壊しちゃったし。

A 偉いじゃん。そんな力があれば大切な人を守るじゃん。

B でもこの前だって会社の金300万横領しちゃったし。

A 偉いじゃん。それはもう……ある意味どえらいじやことじゃん。

B 俺って偉いかな？

A 偉いよ。私なんかよりずっと偉いよ。

B 本当？

A 本当だよ。私なんかよりずっと偉い。

B そうなんだ。

A うん。

B じゃあちよつと焼きそばパン買って来いよ。

A え？

B え、だってお前より俺の方がずっと偉いんだろ？

A うん、まあ……

B え、焼きそばパン買ってきてくれないの？

A うーんちよつと……

B そうだよな。だって俺偉くないもんな。さっきのも

全部嘘だもんな。

A ううん、ごめん焼きそばパン買ってくるよ。

B マジ？ じゃああとコーラと、

A うん、

B あとフライドチキン買ってきて。

A うん。

B あと……

B はいろんなものを買って来いといい、Aはうんうんときき続ける。

4. 鏡

D 僕が「おはよう」と言ったら、

キミも「おはよう」と言う。

僕が「寒いね」って言ったら

キミも「寒いね」って言う。

僕が「お腹すいた」と言ったら

キミの「お腹すいた」と言う。

E がやってくる。

D 僕が「おはよう」と言ったら、
キミも（E「おはよう」という
僕が「寒いね」って言ったなら
キミも（E「寒いね」って言う。
僕が「お腹すいた」と言ったら
キミも（E「お腹すいた」と言う。

D おはよう。
E おはよう。
D 寒いね。
E 寒いね。
D お腹すいた。
E お腹すいた。
D おはよう。
E おはよう。
D 寒いね。
E 寒いね。
D お腹すいた。
E お腹すいた。
D っつかお前誰？

沈黙。

E っつかお前誰？
D お前は誰？
E お前は誰？
D お前は誰？
E お前は誰？
D お前は誰？
E お前は誰？

と問い続けるDとE。

二人の間には壁があるようだ。

壁をたたいたりしてなんとかお互い向こうに行こうとするがで
きない。相手からの言葉に、イラだちや不安を募らせていく二人。

5. 面接

F （Gの履歴書を持っている）はい、どなたですか？
G はい、私は青木大学アオ学部4年生アオキアオコ、
22歳です。
F はい、ええと、ですからどなたですか？
G はい、私は2年生のときに青サークルの青イベント
でリーダーとなり、イベントの成功へと導きました。

F うん、ですから、どなたですか？

G はい、その経験を活かし、御社ではチームをまとめて、売上の向上に貢献します。

F うんうんうん、ですから、どなたですか？

G え、申し訳ございません！ 私、時間を間違えましたか？ あれ、面接会場はここで合ってますか？

F はい、合ってますよ。あなたの履歴書を持っています。

G あ、そうですか、よかったです！

F ……で、あなたはどなたなんですか？

G はい、私は青木大学アオキアオコ4年生アオキアオコ、22歳です。

F うん、それは聞きました。

G はい、私は2年生のときに青サークルの青イベントでリーダーとなり、イベントの成功へと……

F (途中で遮る) うんうんうん、聞いたのそれは。

G はい、その経験を活かし、御社ではチームをまとめて……

F うんうんうん、それも聞いた。

G はい！

F で、あなたはどなた？

G ……はい？

F どなたなんですか、あなたは？

G はい、アオキアオコです。

F うんうんだからね、それは名前でしょう？

G はい、22歳です！

F うん、それは年齢でしょ？

G 青木大学青学部4年生です！

F うん、それは大学でしょ。

G はい……、

F だからたとえばね、青木大学青学部4年生って、た
くさんいるでしょ？

G はい、アオキアオコ22歳です！

F うん、だからね、それは名前と年齢でしょ？

G はい、

F たとえばね、私が今からアオキアオコって名前にな
って、22歳になったとするでしょ？ そうすると、

私はあなたってことなのかな？

G ……はい？

F だから、私はあなたなのかな？

G 違いますけど……？

F うん、そうだね。

G っていうか22歳にはなれないと思います。

F うん、たとえばからね。

E が入ってくる。

E 失礼いたします。

F はい、どなたですか。

E はい、私は青木大学アオ学部4年生アオキアオコ、
22歳です！

G ！

F ほらね。あなたはこの人ですか？

G いえ、私はこの人ではないです。

E 私は2年生のときに青サークルの青イベントでリーダーとなり、イベントの成功へと導きました。その経験を活かし、御社ではチームをまとめて、売上の向上に貢献します。

F ほらね。あなたの理屈で言えばこの人はあなたでしよ。

G いえ、この人は嘘をついてます。

E は？ なにを根拠に？

G だって、青イベントのリーダーはひとりだけですから！ 2年生のときに青イベントのリーダーをやったのは私ひとりだけです。

F っていうか青イベントってなに？

E その通りです。2年生のときに青イベントのリーダーをやったのは私ひとりだけです。

F うん、っていうか青イベントってなに？

G 青サークルにこんな人はいませんでした。この人は

嘘をついています。

F うん、っていうか青サークルってなに？

E その通りです。青サークルにこんな人はいませんでした。この人は嘘をついています。

C が入ってくる。

C 失礼します。

F はい、どなたですか。

C はい、私は青木大学アオ学部4年生アオキアオコ、
22歳です！

G 嘘です、これは嘘です！

E あなたも青木大学アオ学部4年生アオキアオコ22歳でしたか、こりや偶然。

C 私は2年生のときに青サークルの青イベントでリーダーとなり、イベントの成功へと導きました。その経験を活かし、御社ではチームをまとめて、売上の向上に貢献します。

E おお、こんな偶然があるんですね！

G ありえませんか。何ですかこれは。私をからかうのもいい加減にしてください！

E っていうか、お前誰？

G はあ？ 私は青木大学アオ学部4年生アオキアオコ、

22歳ですけど！

E いやいや、そうじゃなくて、誰？

G だから、アオキアオコです！

E いやいや名前じゃなくて、誰なのかきいてる。

F まあまあまあ落ち着きましょう。この人は自分が誰なのかわかってないみたいですから。

C そんなバカな。自分が誰なのかわからない人なんているものですか。

F いやいや、大した問題じゃないですから。

G じゃあききますけど、あなたは誰なんですか？

E 私が誰かって？ おかしなことをききますね。

G 名前も年齢も大学もあなたじゃないでんしょ？ じやああなたは誰なんですか？

E 私は私ですよ。

G はあ？

E 逆にききますけど、あなたはあなたじゃないんですか？

G いや、それは、

E だって（Cに）あなたは誰ですか？

C 私は私ですよ、当然です。

E そうですよ。（Gに）ええ？ あなたはもしや何歳だとかどこの大学に入学したとか、そんなことが自分だと思っているのですか？ ええ？ いるんだいるんだ

こういう奴が。モテるとか、SNSのフォロワーが何人だとか、あなたはそういうのを自分だと思っているんでしょ？

C そこまで責めなくてもいいでしょう。人間というのは浅ましいものです。誰にでも間違いはあるでしょう。
E これは現代の病ですよ。私は私だ。当たり前でしょう。（Cをさして）0×0は100だと言っているようなものですよ。

F まあまあいいじゃありませんか。0×0は100と
いうのは間違いですが、0×0は100であつてほしいと願うことは罪ではありません。それに私が悪かったんです。どなたですかなくてきくべきではなかったんです。だって、あなたが誰かなんて労働するうえでは関係ないんですから。別に働いてくれさえすればあなたが誰かなんてどうでもいいんです。ええと、アオキアオコさん、

C・E はい！

F ほらね、こうなる。あなた、

C はい！

F それにあなた、

E はい！

F そしてあなた。

G はい……

F ぜひ御社で働いてください。

C・E はい！ 喜んで！

F （Gに）あなたも、大丈夫ですよ。自分が自分だとわからなくても、労働なんてできるんですから。

G 私は働きません……

F はい？

G 私は働きません！

Gは走る。

A こうして彼女は走りました。部屋の窓を突き破り、ビルの7階から飛び立ち、両腕の翼を広げながら下界を見下ろしました。そうか、空には真の孤独はないんだ。そう眩きながら、翼をはためかせます。

C・E おーい！

A アオキアオコとアオキアオコと一緒に飛んできました。アオキアオコとアオキアオコとアオキアオコは3人で一緒に旋回し、下界の様子を見てみました。

C そういえばキミたち、ドストエフスキーは読むかい？

G え、誰？

E めっちゃ読みます。

C 罪と罰。

E カラマーズフの兄弟。

C オー、ファンタステイック。

C・E イチャイチャ、イチャイチャ。

A 空にもやはり孤独はあった。そうつぶやくと彼女は工場の前に降り立ちました。そしてその人は昨日までと同じように、ベルトコンベアに流れてくるさくらもちに、ひたすら草を巻き始めました。アオキアオコとアオキアオコは翼が絡まり、太平洋に落下しましたとさ。めでたしめでたし。

6. MCバトル

音楽を背景に、リズムよく言葉を紡ぐ。

D YO！ とうとうやってきた決勝戦

おめえみてえなザコはやっちゃうぜ

運よくここまで不戦勝

相手に毒でも盛ってんじゃねーの？

運がいいだけのニセ勝者

もしくはただの犯罪者

おめえは運だが俺は実力

文句があるならかかってこいや！

B (リズムに乗ろうとするがまったく乗れない)

えー……この人悪口がすごい

なんかすごい悪口言ってくる

傷ついたなあ YO！

実際毒を盛ったし YO！ 毒を盛りました

あとお前は口臭い 口が臭いYO！

さつき楽屋で喋ったけど口臭いYO！

今もすごく臭い ドブの匂いにするYO！

D おい止めろ止めろ！

音楽、止まる。

B 怖気づいたのかYO！

D お前マジ？

B なにがだYO！

D 下手すぎるだろ。

B お前のデイスなんか怖くないYO！

D いやいやデイスとかじゃなくて、ガチ。

B ガチかYO！

D その「YO！」ってのやめろ。

B うん。

D リズム乗れや！

B ん？

D リズム乗れや！

B うん。

D リズム乗ってなかったらただの悪口だから。

B はあ。

D 俺口臭いか？

B ドブみたいなにおいする。

D マジかよ……

B 生きてることを謝罪しろ。お前の口臭で観客がみんな死ぬ。いまずぐ死んで次の人生で頑張れ。

D だからリズムに乗せて言えよ！ 傷つくだろ！

B はあ。ほんとこういうやつが世の中を悪くするんだよ。

D はあ？

B 1回戦からあなたの試合を見てましたけど、口を開けば悪口ばかり。みなさんも見てましたよね？ この人はじめて会った人にめちやくちや悪口言ってますよ。

D MCバトルだから。

B はあ？

D MCバトルってそういうもんだから。

B この人自分はさんざん悪口言っておいて、いざ自分

が悪口言われたら「傷ついた」とか被害者ヅラする社会の害悪ですよ。こいつゴミですゴミ。

D だからリズムに乗せて言えって。

B はあ？

D だからあ、お前のただの悪口だから。

B なんで？

D リズムに乗ってないから。

B はあ？

D 音楽かけて、リズムに乗って悪口言うからラップなの。お前はリズムに乗ってないからただの悪口なの。

B いやいや悪口にかわりないでしょ。

D 違うの。ここはリズムに乗せて悪口言う大会なの。

B しょうもな。

D しょうもないって言うなよ。こちらら人生かけてんだよ。

B この人はリズムに乗せて悪口をいうことに人生かけてるしょうもない人です。

D だからそれをリズムに乗せて言えよ。えってかお前、なんか毒盛つてるとか言ってなかった？

B はあい。

D マジ？

B 毒っていうかまあ下剤ですよ。

D え、ほんとに犯罪者じゃん。

B ここって犯罪者の大会なんじゃないんですか？

D 違うよ。

B だってみんな堂々とステージで犯罪行為を行ってるじゃないですか？

D ラップのこと犯罪行為って言わないで。

B 侮辱罪でしょ。「公然と人を侮辱した者は、1年以下の懲役若しくは禁錮若しくは30万円以下の罰金又は拘留若しくは科料に処する。」でしょ。

D 条文読み上げるのやめて。みんな侮辱されることを受け入れた上でステージにのぼってるから。でなに？下剤入れたの？

B はい、犯罪者大会だと思ってたので。

D すみません、ちよつと警察呼んでください。

B はい、この人侮辱罪で逮捕してください。

司会Eがやってくる。

E あ、このまま大会続けていいですよ。

D いやいや警察呼んでよ。

E 優勝は！ この人だあ！

E、Bの手を上げる。

D なんでなんで。

E いやだつてあんた勝手にバトル止めたから。

D マジ？（お腹を押さえる）う！

B あ、ようやく下剤きいてきましたね。

D きついつて。

E 優勝賞金300万円、何に使いますか？

D きついつて！

B 今まで自分を育ててきてくれた親に恩返ししたいです
すね。

D きついつて！ きついつて！